

清田の大クス は中部地方随一のクスの巨木として知られ、推定樹齢は1000年と言われています。近年は、台風などによる塩害やクスサン（ガの仲間）の大発生などにも見舞われましたが、ツリーライミングによる高所の枯れ枝伐採や、ボランティアの皆さんの継続的な作業の効果でだんだんと樹勢を取り戻しつつあります。

保全ボランティアに登録しませんか

- と き** 年2～3回 半日程度（登録者に事前連絡）
- と ころ** 清田の大クス
- 内 容** 草刈り、折れた枝の除去、土の掘り起こし、よしず・すだれの敷設
- 対 象** どなたでも（小学生以下は保護者同伴）
- 申し込み** 直接、電話、メールで、住所・氏名・年齢・電話番号を博物館（✉ museum@city.gamagori.lg.jp）へ。
- その他** 古くなったよしず・すだれを集めています。直接博物館へお持ちください。

館長の
ひょうたん



小林 龍二

家庭の照明と同じように、水族館の照明もLEDに替わってきました。スマホで設定すれば照明の点灯・消灯だけでなく、照らす明るさも時間によって変更できます。朝の薄明かりからだんだん明るくなって、夕方徐々に暗くなり消灯ということが簡単にできるのです。

照明の他にも今ではエサも勝手にやってくれる機械がありますし、水換えも自動でやろうと思えばできます。しかし竹島水族館は心を込めて人力でやっておりますよ。お金じゃなくて、気持ちが大事なんです。いや、お金が大事かもしれません。

今後、もっといろんなものが機械化・自動化されていくので飼育員はやるのが無くなってきます。魚を眺めているだけでは仕事にならず給料をもらえないので、これからの飼育員は他の能力がないと仕事を機械

にとられてしまいます。機械にできない、人にしかできない、さらにはそれが自分にはできない場合は「強み」となって未来の優秀な飼育員になれます。昔は飼育が水族館の仕事のメインであり絶対的に大切な事でしたが、世の中の考え方もどんどん変わってきています。置いてけぼりにならないように、必要ないと言われないように、私自身も気をつけて世の中の流れを考えて良い水族館を作っていくかといけません。魚のようにヒレを持って世の中の流れをすいすい自由に泳げればなあ。



これくらい優雅で美しいヒレだったらもっと良いですね。